

社会へ羽ばたく薬学生へ

伝

えたいメッセージ



論語に学ぶ、薬学部6年間の心構え

一、朋あり遠方より来る、また樂しからずや。

華学を学びたいと思う学生が各地から入学し、薬剤師資格取得へ向けての第一歩を踏み出すこととなります。一緒に学ぶ仲間には出身高校も年齢も様々で、生活行動も個人の自由度が高くなります。その様な環境のもと、心の通い合う友人との出会いの機会が生まれるのもこの時期です。勉学のみならず、クラブ活動や遊びの中で交流を楽しみたいものです。

二、苗にして秀でざる者あるかな、秀でて実らざる者あるかな。

なんとなく薬学部を選んだ人も基礎華学や早期体験学習により、方向性が見えてくるかと思えます。逆に2年次頃に方向を見失いがちになるのも事実です。せっかくなぞ志した華学の道、正念場です。苗の状態のまま、誠実さや気力もなくなった人は、早めの方向転換も考えるべきです。ただ、誠実さのない人は、同じことの繰り返しが予想されます。

三、君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず。

問題解決にあたり、自分の考えを持ったうえで他人の意見も尊重し、最善の解決策を探る。これは、チーム医療においても重視されることです。自立心と協調性を育みましょう。

四、老者はこれを安んぜしめ、朋友はこれを信ぜしめ、小者はこれを懐かしめん。

先生や先輩からは安心して研究や仕事を任せられ、同輩からは信頼される。そして後輩からも頼りにされる、そのような級生を目指せば、CBTもOSCEも問題なしです。

五、己の欲せざるところは、人に施すことなかれ。

自分がして欲しくないことは、人に対してもやってはいけません。言い換えれば、相手がしてもらいたいことを施す。これは5ヶ月間の長期実務実習にあたり基本的な心構えです。

六、位なきを患えず、立つ所以を患う。己を知ることもなきを患えず、知らるべきをなさんことを求むるなり。

自分では実験など一生懸命がんばってきたつもりでも、周りでは友人の方が評価されている。その様な場合、自分を評価してくれない周りにグチを述べるより、自分を省みて、足らざる部分を知り、そして補うことに努めましょう。クサらずに前向きに進めば結果は付いてきます。

最後に、薬学士取得にあたっては、薬剤師を目指す前に、よい人間を目指していただきたい。

崇城大学 薬学部 教授

薬学博士 瀬尾量さん「薬剤師」

